

(様式3号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 下村 麻衣子

〔題名〕

Intravenous immunoglobulin does not increase Fc γ R II B expression levels on monocytes in children with immune thrombocytopenia

(小児ITPにおいて免疫グロブリン大量療法は末梢血単球Fc γ R II B発現を増強しない)

〔要旨〕

【背景】小児免疫性血小板減少性紫斑病 (ITP)は血小板膜に反応する抗血小板自己抗体が血小板を破壊し、血小板減少を来す自己免疫性疾患である。血小板膜上の糖蛋白に抗体が結合した血小板は、早期に網内系の単核食細胞系 (mononuclear phagocyte system : MPS) に貪食されて破壊される。免疫グロブリン大量療法 (IVIG) は小児ITP において迅速にかつ持続的に血小板を上昇させる治療法として確立されている。これまでにITPのラットモデルにおいてIVIGが脾臓マクロファージの抑制性FcレセプターであるFc γ R II B (CD32B) の発現を増加させることが報告されているが(Science 2001; 291:484-6)、ITP患者ではその機序は不明である。

【目的】小児ITP患者においてIVIGの末梢血単球上Fc γ R II Bの発現へ及ぼす影響についてフローサイトメトリー法を用いて検討する。

【方法】対象は小児ITP症例20例 (男12例, 女8例, 中央値2歳11か月)。IVIG投与前後での末梢血単球上Fc γ R II Bの発現を検討した。

【結果】小児ITP患者においてIVIG前後でCD32B陽性単球の絶対数、単核細胞中および単球中における比率のいずれも有意差を認めなかった。

【考察】IVIGは小児ITPにおいては末梢血単球上のFc γ R II Bの発現を増加させない可能性が示唆された。小児ITP患者におけるFc γ R II B のIVIGの効果への関与については議論の余地があり、IVIGの機序の詳細については今後も検討が必要である。

作成要領

1. 要旨は、800字以内で、1枚でまとめること。
2. 題名は、和訳を括弧書きで記載すること。

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1369 号	氏 名	下村 麻衣子
論文審査担当者	主査教授	谷澤 幸生	
	副査教授	玉田 耕治	
	副査教授	大賀 正一	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
Intravenous immunoglobulin does not increase Fc γ R II B expression levels on monocytes in children with immune thrombocytopenia (小児 ITP において免疫グロブリン大量療法は末梢血単球 Fc γ R II B 発現を増強しない)			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
Intravenous immunoglobulin does not increase Fc γ R II B expression levels on monocytes in children with immune thrombocytopenia (小児 ITP において免疫グロブリン大量療法は末梢血単球 Fc γ R II B 発現を増強しない)			
掲載雑誌名 Clinical and Experimental Immunology 第 169 巻 第 1 号 P. 33 ~ 37 (2012 年 1 月 掲載)			
(論文審査の要旨)			
<p>【背景】小児免疫性血小板減少性紫斑病 (ITP) は血小板膜に反応する抗血小板自己抗体が血小板を破壊し、血小板減少を来す自己免疫性疾患である。血小板膜上の糖蛋白に抗体が結合した血小板は、早期に網内系の単核食細胞系 (mononuclear phagocyte system : MPS) に貪食されて破壊される。免疫グロブリン大量療法 (IVIG) は小児 ITP において迅速にかつ持続的に血小板を上昇させる治療法として確立されている。これまでに ITP のラットモデルにおいて IVIG が脾臓マクロファージの抑制性 Fc レセプターである FcγR II B (CD32B) の発現を増加させることが報告されているが (Science 2001; 291:484-6)、ITP 患者ではその機序は不明である。</p> <p>【目的】小児 ITP 患者において IVIG の末梢血単球上 FcγR II B の発現へ及ぼす影響についてフローサイトメトリー法を用いて検討する。</p> <p>【方法】対象は小児 ITP 症例 20 例 (男 12 例, 女 8 例, 中央値 2 歳 11 か月)。IVIG 投与前後での末梢血単球上 FcγR II B の発現を検討した。</p> <p>【結果】小児 ITP 患者において IVIG 前後で CD32B 陽性単球の絶対数、単核細胞中および単球中における比率のいずれも有意差を認めなかった。</p> <p>【考察】IVIG は小児 ITP においては末梢血単球上の FcγR II B の発現を増加させない可能性が示唆された。小児 ITP 患者における FcγR II B の IVIG の効果への関与については議論の余地があり、IVIG の機序の詳細については今後も検討が必要である。</p>			
本研究は小児 ITP 患者において免疫グロブリン大量療法は末梢血単球 Fc γ R II B 発現を増強しないことをはじめて報告した論文である。よって、学位論文として価値あるものであると認められた。			